

平成 28 年 6 月 3 日

各 位

会 社 名 株式会社 プラコー
代表者名 代表取締役社長 黒澤 秀男
問合せ先 総務・経理部部長 山崎 正彦
電話 0 4 8 - 7 9 8 - 0 2 2 2

当社社外取締役からの意見書受領のお知らせ

当社は、平成 28 年 6 月 29 日開催予定の第 56 期定時株主総会について、有限会社フクジュコーポレーションより提出された株主提案に対し、平成 28 年 5 月 27 日付「株主提案に対する反対表明のお知らせ」にてお知らせしておりますが、当該開示に先立って開催された当社取締役会において、株主提案への反対意見表明決定の決議に賛成した社外取締役小沢剛司氏より、意見書を受領いたしましたので、お知らせいたします。

以上

別紙

平成28年6月3日

株式会社プラコー
社外取締役 小沢 剛司

私は、社外取締役として平成28年5月27日に開催された取締役会に出席し、株主提案に反対する意見表明をなすことに賛成致しました。

表明された意見内容については既に公表されたとおりであります。

私は、株式会社プラコーの株式を一切保有しておらず、一般株主の方々と利益相反関係が生じるおそれのない独立役員という立場にあります。以下では、私が上記意見内容に賛同した理由についてご説明させていただきます。

株式会社プラコーが社外取締役を選任するに至ったのは、平成20年7月頃に過年度における不適切な会計処理が発覚し、全社一丸となったコンプライアンスが最重要課題とされたことにあります。

この不適切な会計処理に関しては、私は第三者委員会の一員として調査に当たり、株式会社プラコーに対して問題点の指摘をさせていただきました。これを受けて株式会社プラコーは以後コーポレート・ガバナンスの強化に努めてきたところであり、平成22年度以降社外取締役及び社外監査役が選任されていることはその一環であります。

平成22年6月に社外取締役に選任されて以来、約6年間株式会社プラコーの経営に携わってまいりました。その間、現社長である黒澤氏以外の常勤取締役の顔ぶれは変わりましたが、コーポレート・ガバナンスは確実に強化されており、過去の過ちを繰り返すようなおそれは完全に払拭されたものと思われま

す。業績面においても、平成28年3月期決算発表からして、不適切な会計処理を原因とする経営危機を脱したことを十分にうかがうことができるところであり、今後更なる業績改善に向けた取り組みが期待できるとなっております。

ところが、今回の株主提案における取締役候補者の方々全員が株式会社プラコーの事業のみならず経営改善に一切関与された経験がないことから、過去の過ちを今後のコーポレート・ガバナンスの維持・強化に生かすということについて多大な不安を抱かざるを得ません。

このことは、多数の取引先にも無用の不安を与え、安定的な取引継続が確保できるのかという見地からも、看過し難いものと言わざるを得ません。

万が一このような不安が現実には発生した場合には、少数株主の方々を含む多くの株主の方々に回復し難い損害を与えてしまうおそれがあります。

このようなことから、私は株主提案に反対する意見表明に賛成させていただきました。

株主の方々におかれては、現経営体制による経営改革の成果をご理解いただき、賢明なご判断をお願い致します。